

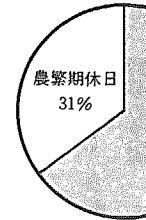
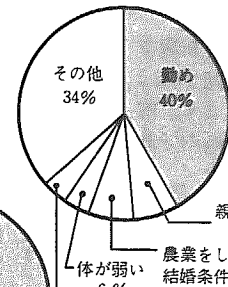
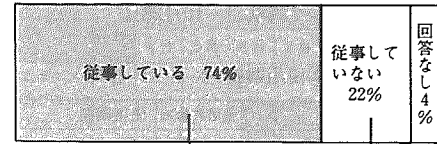
# 農村婦人意識調査

## 農業は男だけではできない。婦人と二人三脚だ

# 野菜作りに高い関心

## 全農家の婦人を対象に調査

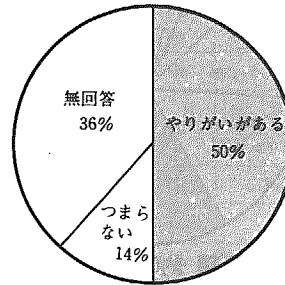
問1. 農業に従事していますか



### 調査方法

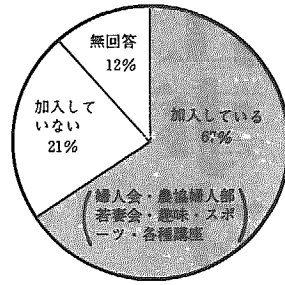
今年6月、町内の全農家の50歳くらいまでの婦人を対象に、農協婦人部役員、農家組合長をとらして調査用紙を配布し回収した。配布数は912枚で回答数は649枚。回答率は71.2パーセント。

問2. 農業観

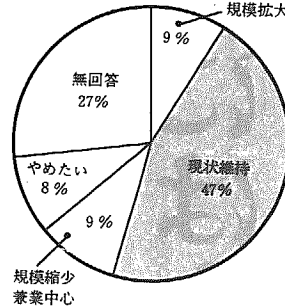


主婦で労働者。農村婦人こそキャリアウーマンだ

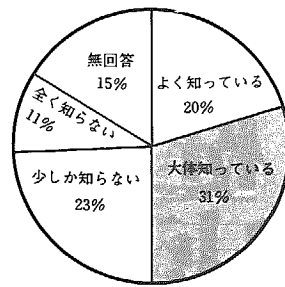
問3 組織に加入していますか



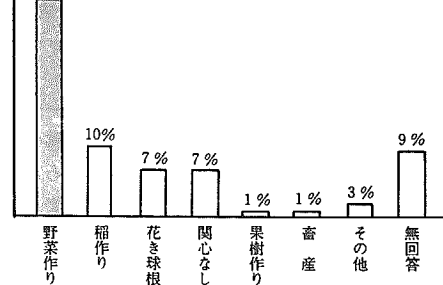
問8 将来の農家経営は



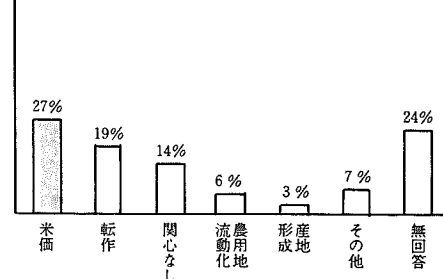
問9 農家経営について



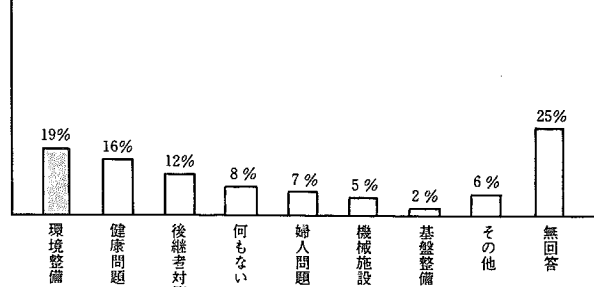
問4 関心のある農業技術



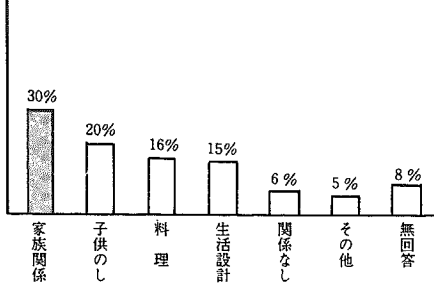
問5 関心のある農政



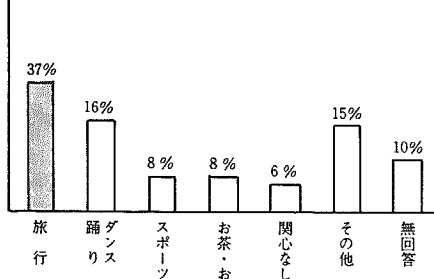
問10 行政や農業団体に望むことは



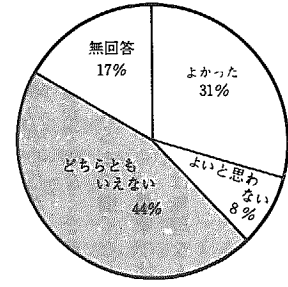
問6 関心のある生活方法



問7 関心のある趣味



問11 農家に嫁いだ感想は



事していない人が41%と農業離れがみられます。

農業観ではやりがいがあると答えた人は50%。若妻では41%です。婦人会、農協婦人部など組織に加入している人は67%。南部が81%と高率。北部は39%で一般家庭に狭まれ農村婦人が点的存在になっていると思われる。

加入していない人で加入を望む人は63%。若妻層では若妻学級の開講を40%の人が望んでいます。

### 野菜作りに意欲

野菜作りで大きな力となるのが婦人ですが、農業技術の内62%が野菜作りに最も関心を持っています。10%の稲作りと好対照です。野菜作りの意欲込みは高いといえます。

しかし、現実にはまだまだ米作りが主流です。農政への関心率は米価が27%と最も高く、続いて転作となっています。関心なしと無回答の率も高く、農政に対する冷やかな態度とみてよいのではないのでしょうか。

生活面では家族関係、子供のしつけ、料理などまんべんなく関心を持っています。趣味では旅行が37%とトップでした。

以上の4問については若妻層、地区別でもほぼ同様の結果です。農業経営については、よく知っているのと大体知っているが合わせ

農村婦人意識調査は町でも初めて行った調査です。町の全農家のうち50歳までの婦人を対象に、農協婦人部役員、農家組合長にとらして調査用紙を配布し回収した。配布数は912枚で回答数は649枚。回答率は71.2パーセント。

その結果、912枚配布されました。農家委員会で調べた農家数は895戸です。で、全農家の婦人が対象にできたといえるでしょう。

回答者は649人で、回答率は71.2%。回答者の年齢別内訳は35歳以下が162人25%、36~45

### 農村婦人912人

農村婦人意識調査は町でも初めて行った調査です。町の全農家のうち50歳までの婦人を対象に、農協婦人部役員、農家組合長にとらして調査用紙を配布し回収した。配布数は912枚で回答数は649枚。回答率は71.2パーセント。

その結果、912枚配布されました。農家委員会で調べた農家数は895戸です。で、全農家の婦人が対象にできたといえるでしょう。

回答者は649人で、回答率は71.2%。回答者の年齢別内訳は35歳以下が162人25%、36~45

### 74%が農業に従事

調査設問は上のグラフのとおり11問あります。問1でわかるとおり74%の婦人が農業に従事しており、婦人も貴重な労働力といえます。しかし、35歳以下の若妻は従

て51%、将来は現状維持が47%。行政や農業団体に望むことは環境整備が19%とトップ。基盤整備が2%と最下位でした。

この3問では回答なしが目立ち、知らない、やめたい、何もないなどの率を考え合わせますと、全体的に農村婦人の農業離れも多少あるのではないかと考えられます。

### 今後の農業は婦人

アンケート結果は全体、年齢層別、地区別に分けてまとめられた小冊子を12月に全農家に配布します。ご覧ください。

町では、この結果を今後の農政に結びつけていく考えです。現在、町には農協婦人部のほか、農業の婦人団体はありませんので、婦人の組織作りを検討しています。

例えば、婦人を中心にした各種の農業講座、青年農業者の婦人版ともいうべき意欲的な婦人を集めたサークルなどです。

米作りはもろろん、これから力を入れていく野菜作りには米以上に婦人の力が必要です。婦人は家庭でも主婦という立場です。生産と生活で婦人の果たすべき役割は大きいものがあります。

婦人の力をどう農業に活用できるのか、が本町農業の行方を決定するのではないのでしょうか。